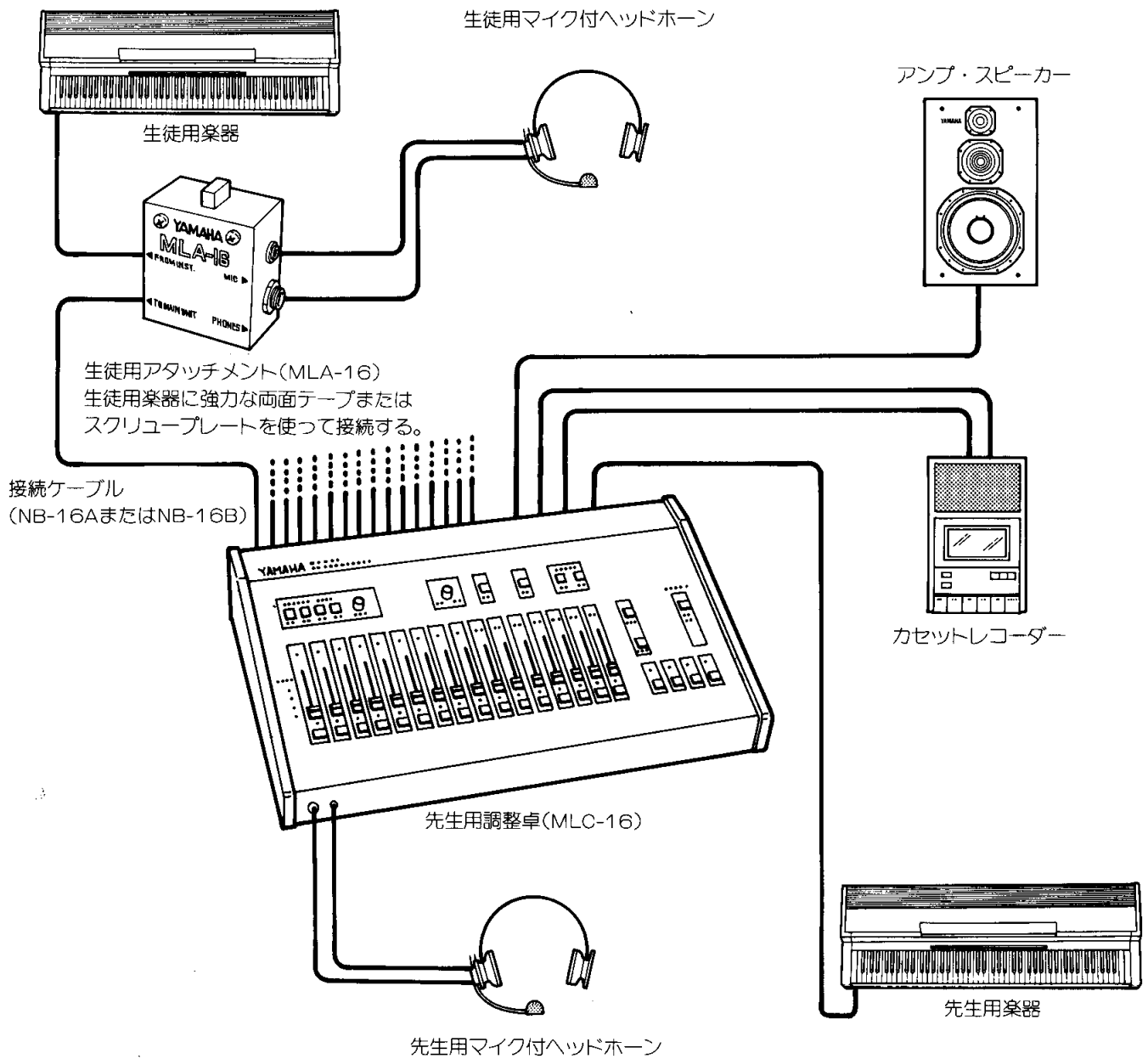


YAMAHAミュージック ラボラトリー システム

調整卓 MLC-16

取扱説明書

システムのセットアップ方法



YAMAHA

1. MLC-16 先生用調整卓の機能

ヤマハミュージックラボラトリーは、先生がその機能を活用して指導の効率アップをはかることができます。と共に、その効率アップによって得られる時間を有効に使うことにより、音楽教育の質を高めることを目的としたシステムです。

ヤマハ MLC-16 はこの種の音楽教育システムとしては現在最も進んだシステムですので、クラビノーバなどのキーボー

ドを使ったグループ教育の場で色々な指導手法が可能となります。

ヤマハ MLC-16 先生用調整卓はグループでの学習だけでなく個人学習用としても使えます。例えば、先生は任意に生徒を二人一組、三人一組、四人一組、など…どんな組合せも可能です。(但し、4グループまで)

マイク付ヘッドホーンを通して、先生は

生徒一人一人、グループ、クラス全体をモニターし、連絡を取ることが可能です。

一般的な指導では、例えば、先生は各生徒にある部分の演奏指示を与えて個々に演奏をさせることからレッスンを開始し、次にクラス全体で演奏する前に、クラスアンサンブルとして小グループごとに別のパートの演奏指導を進めることが出来ます。

個人学習

SOLO機能を使うことで、各生徒は他の生徒の練習による妨害を受けないで演奏練習を行うことが出来ます。さらに、先生は各生徒の演奏をモニターし、口頭で指示を与え、さらに演奏のデモンストレーションを行うことが出来ます。

さらに、本システムではレコーディングすることもでき、必要に応じて個々の生徒に聴かせることも出来ます。

これらの方法をもって、生徒は聴かなければならないサウンドのみに集中することが出来ます。

指導におけるSOLO機能の主な利点は生徒の演奏能力の個人差に関する問題を解決するのに役立つことです。問題点を上げてみると、例えば、

- 生徒Aはある部分を簡単に演奏できるが、生徒Bはその部分について何回かの練習が必要である。
- 生徒には各々、簡単なテーマをもって独自のヴァリエーションを創るように指示する。
- 生徒にはある与えられたメロディーに合う和音付けのコードを探すように指示する。

SOLO機能は各生徒に必要な練習に合った適切な練習課題を割り当てる事が出来ます。

グループ学習

MLC-16を使うことによって、先生はクラスを最高、四つの学習グループに分けることが出来ます。

グループ学習は特に、生徒がアンサンブル練習を必要としたり、コードとメロディー関係の勉強を必要とする時に大変便利です。

小グループ学習でも各生徒の演奏の討論や批評を通して生徒たちに自主性が付くようになります。

グループになると、生徒たちは演奏や話し合うことによってグループのメンバーたちと連絡を取り合うことが出来ます。

生徒を特定に選択したグループに分けることによってグループの修熟度に合わせた指導をすることが出来ます。

ペア学習

ペア学習は次のような二つの対照的な要素を学習するのに大変便利です。

例えば、

- メロディーとカウンターメロディー
- ボーカル (ソプラノとアルト)
- メロディーとベース、メロディーとコードなど。

対照となる要素は幅広い範囲で異なるペアによって同時に学習できます。

ペア学習の利点は：

- 不慣れた生徒にとっては慣れた生徒の演奏を学習するのに役立つ。
- ペアになった生徒は同じところを練習でき、確認し合える。
- ペアになった生徒は二つのパートを一緒にできる。
- ペアになった生徒は二つのパートをアンサンブルで練習でき、確認し合える。

先生との連絡

先生は何時でも口頭か、または演奏デモンストレーションを通して下記の生徒たちと連絡し合えます：

- 個々の生徒 (一人一人、またはその他のいかなる組み合わせ)
- ペア
- グループ
- クラス全体

このシステムでは、先生は演奏が行われている間でも生徒と連絡を取るか、または先生だけが聴こえるように生徒のMic H.Pを切ってしまうかの何れかの方法で生徒との連絡を取ることが出来ます。

演奏デモンストレーション

先生ならびに生徒たちの演奏は、例えば、伴奏とカアンサンブル演奏の何れかの方法でデモンストレーションすることが出来ます。

外部装置の入力

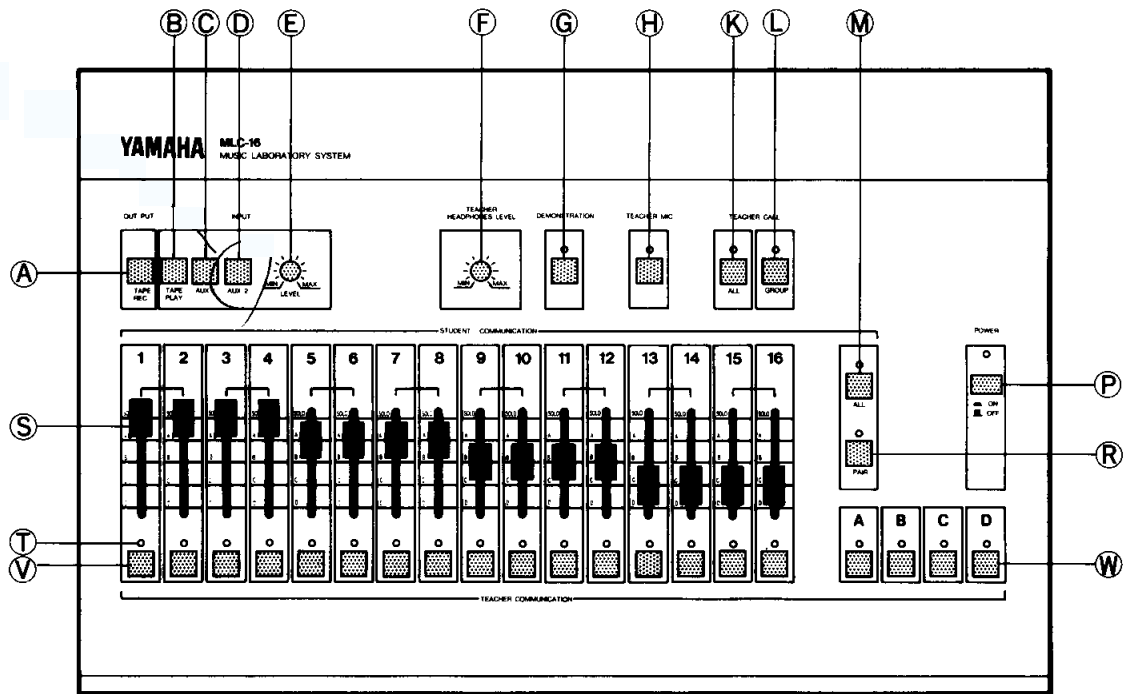
ヤマハ MLC-16 は外部からの三つの入力機能—TAPE PLAY、AUX1、AUX2—を備えています。これによると録音されたサウンドの他にシンセサイザーや他の楽器からのサウンドをシステムに導入することが出来ます。

テープ録音と再生

このシステムでは、テープレコーダーを使うことによって録音や再生が出来ますのでアンサンブルの組み立てや演奏のチェックをするのに便利です。

さらに、先生は将来の使用目的として録音したサウンドをライブラリーとして取って置くことも出来ます。

2. コントロールパネルの説明



Ⓐ TAPE REC.

テープレコーダーを使って、システムからの録音を行うのに使います。
個人選択ボタン(V)、グループ選択ボタン(W)または全員用ボタン(M)を使って生徒個人の演奏かグループの演奏を選択して下さい。
先生の演奏も録音できます。
この操作は外部スピーカーに対する補助出力用としても使います。

Ⓑ TAPE PLAY

このボタンは録音したサウンドをシステムに送信する時に押します。

Ⓒ①AUXILIARY INPUT 1と2

これらのボタンはシステムの外部からの音源を用いる時に使います。例えば、シンセサイザー、他の楽器、または録音されたサウンドなどからの信号。

Ⓔ LEVEL

このノブは入力レベルをコントロールするのに使います。

Ⓕ TEACHER HEADPHONE LEVEL

このノブは先生用ヘッドホンのレベルをコントロールするのに使います。

Ⓖ DEMONSTRATION

このボタンは生徒のデモンストレーションをクラスに聴かせるのに使います。デモンストレーションを行う生徒は個人選択ボタン(V)かグループ選択ボタン(W)のどちらかと一緒にDEMONSTRATIONボタン(G)を押して選択します。

Ⓗ TEACHER MICROPHONE

このボタンは生徒の演奏をモニターしている時に、個人選択ボタン(V)、またはグループ選択ボタン(W)の何れかを使って必要な指示やアドバイスを生徒に与えます。(先生のマイクスイッチ)

Ⓚ① TEACHER CALL

これらのボタンはシステム内の全てのサウンドを消すことによって先生の声を最優先させる為のものです。
GROUP ボタン(L)はグループ選択ボタン(W)と一緒に使います。

Ⓜ ALL button

このボタンは先生が生徒全員と連絡を取り合うのに使います。

Ⓟ POWER ON/OFF

パワーオンはインジケータランプに表示されます。

Ⓡ PAIR button

このボタンを押すと、全生徒がペアになります。例えば、生徒1は生徒2と、生徒3は生徒4と、生徒5は生徒6といった具合にペアに組まれます。ペアに組まれた生徒たちは話し合うことが出来、しかもお互いの演奏を聴き合うことも出来ます。

ペアモードでは、先生はペアになった生徒たちと個人選択ボタン(V)を押すことによって連絡することが出来ます。

Ⓢ 生徒ポジション指定スライダースイッチ (SOLO ポジション)

スライダースイッチをこのポジションにすると、生徒は自分達の演奏練習ができ、しかも他の生徒たちの演奏の邪魔を受けないで自分達の演奏だけを聴くことが出来ます。
先生は TEACHER MIC (H) または個人選択ボタン(V)を使って、個々の生徒に話しかけることが出来ます。
上記コントロールパネルのイラストでは、生徒コントロール1、2、3、4がSOLOポジションです。

(GROUP ポジション) スライダースイッチをポジションA、B、C、Dの何れかの位置にすると、生徒はグループ分けされ、グループ内にて連絡をとることが出来ます。

上記のイラストでは、生徒は次のようにグループ分けされます：

生徒：

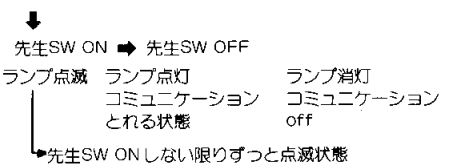
- 5、6、7、8はグループ A
- 9、10、11、12はグループ B
- 13、14、15、16はグループ C

Ⓣ Student Call light

生徒がコールボタンを押すと、ライトが対応する位置で点滅します。

このランプは先生がもう一度そのボタン (Individual Student Selector (V)) を押してコール (呼出) をキャンセルしない限り、何時までも ON の状態のままです。

コールボタンON



Ⓥ 個人選択ボタン

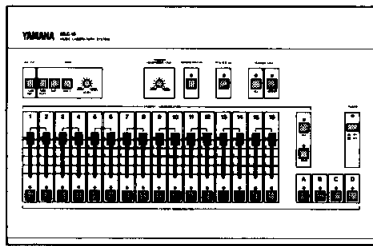
上述した目的、及び先生による個々の生徒の演奏をモニターするのに使われます。

Ⓦ Group Selectors

Individual Student Selectors (V) と同じ機能で個人選択ではなく、グループ A、B、C または D の選択用です。

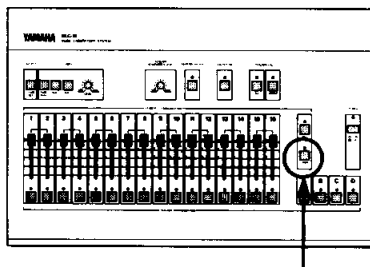
生徒間のコミュニケーション方法

SOLOの場合



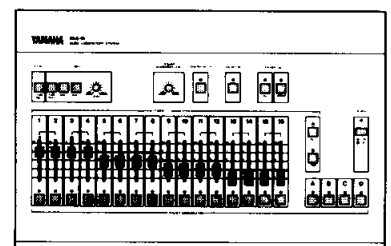
スライダースイッチを
SOLOポジションにセットする。

PAIRの場合



PAIR ボタンを押す。

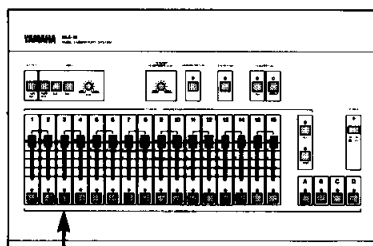
GROUPの場合



必要に応じて、スライダースイッチを
A, B, CまたはDの何れかの位置にセ
ットする。

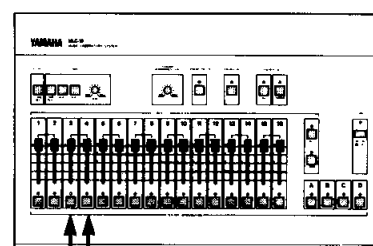
生徒・先生間のコミュニケーション方法

個々の生徒の場合



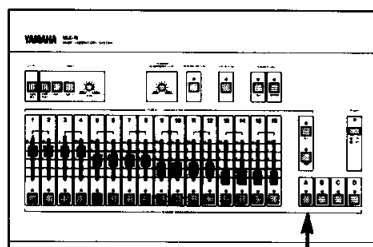
個々の生徒の個人選択ボタンを押す。

ペアーの場合



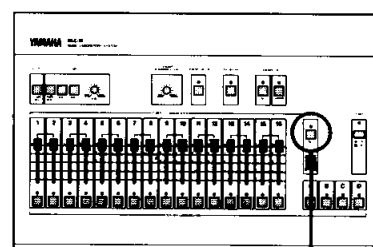
連絡を取りたい二人の生徒の個人選択
ボタンを押す。

グループの場合



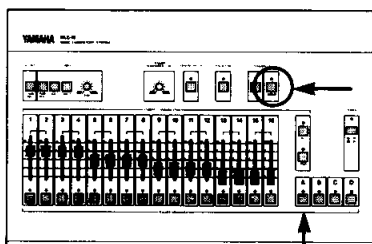
連絡を取りたいグループのボタンを押す。(A~D)

全クラスの場合

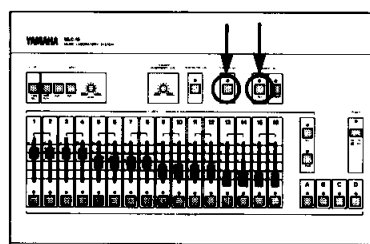


ALL ボタンを押す。

先生のコール（呼出）



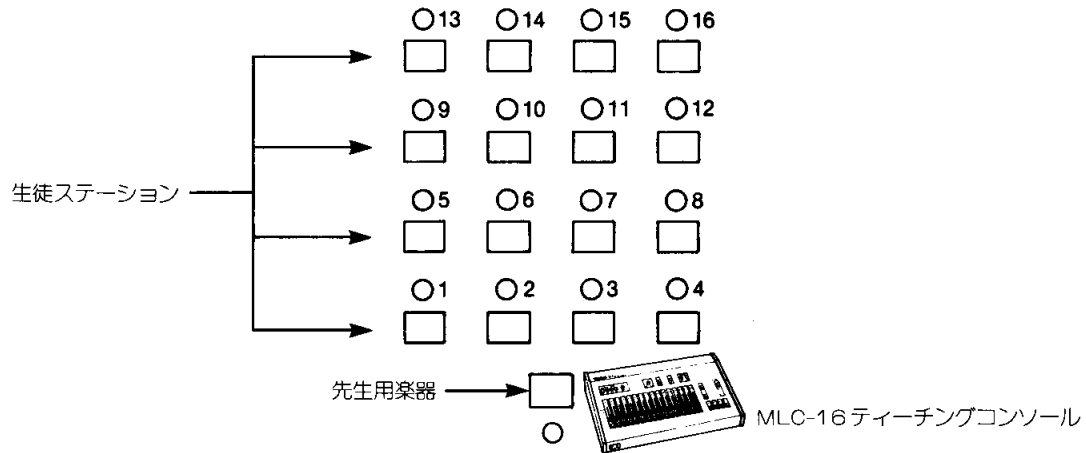
GROUP ボタンとグループ選択ボタン
(A, B, CまたはDの何れか)を押す。
——「グループ」



ALL ボタンを押す。(このALL ボタンは
システム内の生徒の全てのサウンドを無
効にします。)——「ALL」

3. クラスの設定

ヤマハMLC-16ティーチングコンソールは最高16の生徒ステーションを設けることができます。16を越える生徒ステーションを設定したい場合はもう一台のMLC-16を使うことによって生徒ステーションを追加することができます。

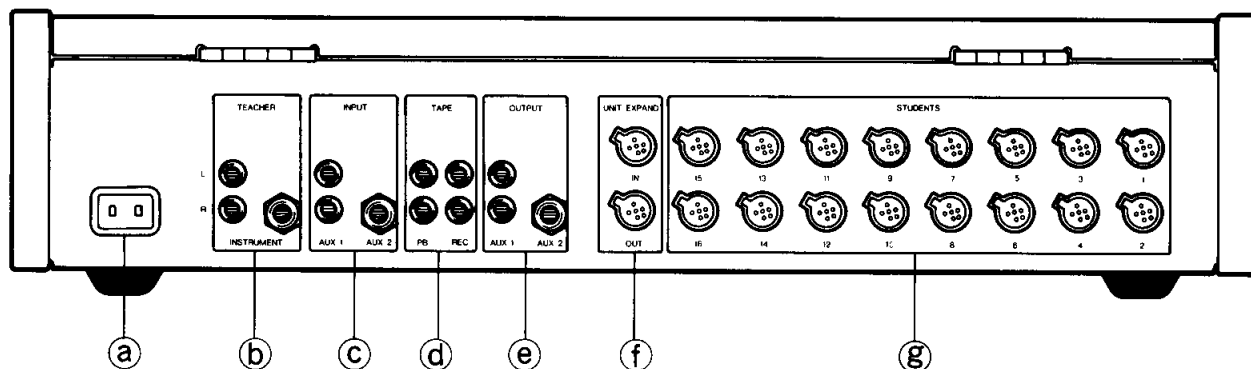


先生用・生徒用楽器

クラビノーバなど電子鍵盤楽器から選択できます。もし必要であれば、数多くのタッチセンシティブな楽器をグループに組み込むことができます。

各生徒用の楽器はアタッチメント MLA-16が必要です。

4. 補助ジャック



④ AC IN Jack

最初に、必ず AC パワーケーブルをここに差し込み、次に AC コンセントに差し込んで下さい。

⑤ TEACHER INSTRUMENT Jacks

先生用楽器からの出力ケーブルはこのプラグに合ったジャックを選択して接続して下さい。

⑥ AUX INPUT 1 & 2 Jacks

これらのジャックはシンセサイザーや他の楽器からの出力を受信するのに使われます。

⑦ TAPE PB & REC Jacks

これらのジャックは、カセットレコーダーを使って先生/生徒の演奏を録音や再生する時に、カセットレコーダーの適切な入出力（録音と再生）ジャックに接続して使います。

注意：上記の④、⑤用の入出力セレクターボタンは2ページのコントロールパネルのイラストに A, B, C, D の四つに区別してあります。これらのボタンは同時に使えませんので、一つだけを選択して下さい。

⑧ AUX OUTPUT 1 & 2 Jacks

これらのジャックは MLC-16 コンソールのサウンドをステレオシステムに送信するのに使うことができます。これには標準接続ケーブルを使って下さい。

注意：MLC-16は直接、スピーカーに接続することは出来ません。パワースピーカーか、個別のパワーアンプとスピーカーシステムの何れかを使って下さい。

* 直接に生徒/先生の演奏とシンセサイザーの演奏、他の楽器演奏、またはテープからのデジタルデータを合わせて(ミックス)録音するには、カセットレコーダーの REC (INPUT) ジャックを接続ケーブルのプラグに合った AUX OUT ジャック(e)に接続して下さい。

⑨ UNIT EXPAND IN & OUTPUT Terminals

これらのターミナルは二台、またはそれ以上の MLC-16 コンソールを接続するのに使います。例えば、接続しなければならない MLC-16 ユニットの (I), (II), (III) … (n) とすると、ユニット (I) の UNIT EXPAND OUT ターミナルをユニット (II) の UNIT EXPAND IN ターミナルに接続、ユニット (II) の UNIT EXPAND OUT ターミナルをユニット (III) の UNIT EXPAND IN ターミナルに接続、というように最後のユニット (n) に達するまで接続して行きます。こうすることによって、たった一人の先生がどんな人数の生徒とも演奏作業を共に行うことができます。しかし、グループ練習では、たとえユニット (I), (II), (III) がグループ A に割り当てられたとしても、各ユニットは別の 1 グループとして機能することになります。

⑩ STUDENT'S INSTRUMENT Terminals

これらのターミナルは各生徒が使う MLC-16 ユニットの接続します。

YAMAHA